

《2018年1月（通算257回）月例会報告》

\*\*\*\*\*

# 日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考える

## －中国のサッカー指導者との情報交換会－

中塚義実（筑波大学附属高校）、Kenio Yao（中国成都市）

通訳：鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）

\*\*\*\*\*

【日時】2018年1月12日（金）18：30～21：10（終了後は「景宜軒」。22：40ごろ中国グループはマイクロバスでホテルへ。残った人は23：40ごろまで）

【会場】筑波大学附属高校 3F 音楽室（会議室の隣）

【テーマ】日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考える－中国のサッカー指導者との情報交換会

【演者】中塚義実（筑波大学附属高校）& Kenio Yao（中国成都市）

通訳：鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）

【参加者（会員・メンバー）9名】

安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、奥崎覚（Qoly）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、齋藤芳（桜丘高校）、笹原勉（日揮）、鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）、張寿山（明治大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊英（世田谷サッカー協会）、

【参加者（未会員）3名】

本間圭（ルーヴェン高崎FC）、守屋佐栄（サポ）、国島栄市

【日本サッカーインスペクションツアー参加者（中国側13名。北京・上海・成都など各地から）】

民間の育成を主とするクラブの指導者 3名

学校の先生（校長、教頭） 2名

スポーツマネジメント会社 2名

サッカーメディア 4名 ※大手ではなく、サッカーに特化したAPP系のメディア

オーシャンズスタッフ 2名

【報告書作成者】中塚義実&鈴木稔

【目次】

第1部 日本側からの報告（中塚）… pp2-9

1. 日本の体育の授業について … pp2-5

2. 日本の部活動について … pp5-8

第2部 中国側からの報告（ムーリエ）… p.9（詳細は含まれない）

補足資料：筑波大学附属高校職員会議（2018年1月9日）での配布資料

「中国からのサッカー指導者視察と情報交換会」について（文責：中塚）… pp10-13

## 第1部 日本側からの報告（中塚）

中国の方々はお昼ごろ学校に来られ、5、6時間目の体育実技と放課後の部活動を見てもらいました。私のプレゼンテーションも、第1部は体育について、第2部は部活動について話します。

### 1. 日本の体育の授業について

日本の体育は世界に誇れるものだと思います。

小学校1年生から高校3年生まで、体育は必修としてカリキュラムの中に置かれており、全ての生徒が学校で様々なスポーツが体験できます。学校の中で様々なスポーツイベント、たとえば運動会や、海や山に行く行事があります。部活動が専門的な機会を提供してくれています。どんな学校にも校庭・体育館・プールがあるので、授業終了後すぐに活動できます。保護者も安心です。全国的な競技会が整備されており、歴史のある学校では地域社会の誇りになっています。

このように、世界に誇れる日本の学校体育のルーツ校と言えるのが筑波大学附属高校です。学校スポーツ誕生の地と言えるでしょう。

なぜそのように言い切れるかというと、柔道の創始者の嘉納治五郎、この方はアジア初のIOC理事で、日本体育協会を作った人でもあります。この方がうちの学校の校長先生だったのです。高等師範学校、いまの筑波大学の校長だったので、附属の校長も兼任されていたのです。そして、この学校で試していたことを、高等師範の卒業生が全国に広めていった。

だからこそ、インスペクションツアーの最後で本校を訪問先に選んだのは、大正解です！

体育の授業について話します。学習指導要領が学校の教育課程を定めています。10年に1度のサイクルで改訂されます。ちょうどいまは改訂期にあります。小学校1年生から高校3年生まで、体育で何をするのかが示されています。

## 世界に誇れる日本の学校体育

－文化としてのスポーツを学び、実践する場－

### ◆12年間の「体育実技」が保障されている！

- ・すべての児童・生徒が、学校で、定期的に運動する機会が設けられている
- ・すべての児童・生徒が、さまざまなスポーツを経験できる

### ◆学校の中でさまざまなスポーツイベントがある！

- ・運動会がある。学校主催の野外行事がある(林間学校、臨海学校)

### ◆部活動が、より専門的な活動の機会を提供している

- ・放課後すぐに活動できる。学校教育活動なので保護者は安心

### ◆全国的な競技会が整備され、注目されている

- ・高校生の競技会に、多くの観衆が集まりメディアが注目する

### ◆卒業生のつながりや地域社会の誇りとなっている

- ・学校運動部や学校行事が、卒業生のきずなを深める
- ・学校運動部の活躍が、地域社会の誇りとして認識されている(例:高校野球)

## 小・中・高12年間の体育

－学習指導要領より－

12年間の指導内容の系図									
小学校			中学校			高等学校			
1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3年	1年	2年	3年以降		
各種の運動の基礎を培う時期			多くの領域の学習を体験する時期			少なくとも一つの運動やスポーツを継続できるようにする時期			
体づくり運動			体づくり運動			体づくり運動			
器械・器具を 使った 運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動		器械運動	
走・跳の 運動遊び	走・跳の 運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技		陸上競技	
水遊び	泳ぐ・泳ぐ 運動	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳		水泳	
表現・リズム 遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス		ダンス	
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技	球技		球技	
			武道	武道	武道	武道		武道	
				体育理論	体育理論	体育理論		体育理論	
			保健領域	保健分野	科目保健	科目保健		科目保健	

佐藤豊、体育の新しい方向(今次の改訂の基点)、『保健体育科教育法』、大修館書店、2009

体づくり運動はずっとやり  
ます。小1では「遊び」。それ  
から少しずつスポーツ種目名  
が入ってきます。高校生にな  
ると器械運動、陸上競技・・・。  
サッカーは「球技」の中に位  
置付けられています。球技を  
ゴール型・ネット型・ベース  
ボール型と分けています。ゴ  
ール型の例として、バスケ・  
ハンドボール・サッカー・ラ  
グビーが位置づけられていま  
す。サッカーは学習指導要領  
ができた当初から体育教材の  
中に位置づいていました。あ  
まり注目されていませんが、

このことがサッカーの普及に大きく影響し  
ています。高等師範学校の多和健雄氏が尽  
力しました。この人もサッカー殿堂入りし  
ています。

前回の学習指導要領改訂で、サッカーの  
扱いは少し後退しました。ゴール型球技の  
一つとして例示されるにとどまったサッカ  
ーは、足を使うこともあって技能の習得に  
時間がかかります。また少年サッカー経験  
者と未経験者の間の技能差が大きく、体育  
で扱いにくい教材と感じる小学校の先生が  
増えています。それなら別のゴール型球技  
をやろうとなりつつあるのです。

この状況を危惧した日本サッカー協会  
(JFA)では、小学校体育サポートプロジ  
ェクトを立ち上げ、簡単な指導プログラム  
を作って提供したり、小学校の先生方を対  
象として研修会を開いています。

そうは言っても実際の子どもの様子を  
見ていると、休み時間に児童はサッカー  
をやって遊んでいるし、サッカーは生徒た  
ちが喜ぶ種目の一つです。高校では、ほと  
んどの学校でサッカーが授業で行われてい  
ます。本校では1年次に男女別必修で、3  
年生は選択した生徒が男女共習でサッカー  
に取り組みます。

サッカー単元の大まかな流れです。今日

「ゴール型」として例示されるサッカー				
小学校		中学校		高校
1・2年	3・4年	5・6年	1・2年および3年	1・2・3年
ゲーム	ゲーム (黒いゲーム)	ボール運動 (黒化したゲーム)	球技	球技
ボールゲーム		ゴール型		
①ボール遊び ②ボール投げゲーム(的当て ゲーム、シュートゲーム、ドッジ ボール) ③ボール蹴りゲーム(的当て ゲーム、シュートゲーム、キック ベースボール)	①手を使ったゴール型ゲーム (ハンドボール、ゴートボール) ②足を使ったゴール型ゲーム (ラインサッカー、ミニサッカー) ③陣地を取り合うゴール型ゲーム (ラグビー、フックアウトボール)	①バスケットボール ②サッカー ③ハンドボール ④ラグビー、フックアウトボール	①バスケットボール ②ハンドボール ③サッカー	①バスケットボール ②ハンドボール ③サッカー ④ラグビー
鬼遊び		ネット型		
①一人鬼、二人鬼鬼 ②宝取り鬼、ボール運び鬼	①ソフトバレーボール ②プレッボール	①ソフトバレーボール ②プレッボール	①バレーボール ②卓球 ③テニス ④バドミントン	①バレーボール ②卓球 ③テニス ④バドミントン
		ベースボール型		
	①ボールを蹴って行うゲーム ②手やラケットなどでボールを 打ったり、止まったボールを 打ったりして行うゲーム	①ソフトボール ②ティボール	ソフトボール	ソフトボール

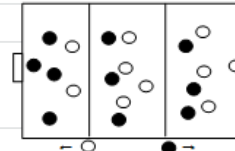
学習指導要領解説をもとに作成(2015, 中塚)

## 本校における1年必修サッカー単元

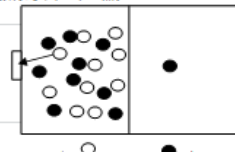
- 1 あそぶ: ボール遊び/ストリートサッカー
- 2 はこぶ・かわす・守る: ドリブル・フェイント・スクリーン
- 3 つなぐ: 枠ありサッカー
- 4 フットサルとは何か I: ビデオ学習と実技
- 5 フットサル大会
- 6 予備日 I: 世界サッカー史をさぐる(VTR学習)
- 7 浮き球の処理&ハーフコートゲーム
- 8 オフサイドの理解 I: オフサイドルールの精神と副審の仕事
- 9 オフサイドの理解 II: オフサイドルールの利用法と攻略法
- 10 サッカーにおける自由と責任 I: ポジションとシステム
- 11 サッカーにおける自由と責任 II: 前後左右のバランス
- 12 サッカーリーグ第1日: ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
- 13 サッカーリーグ第2日: ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
- 14 サッカーリーグ第3日: ハーフコートゲーム(4チーム総当たり)
- 15 予備日 II: みるスポーツとしてのサッカー(VTR学習)

## 今日の授業テーマは「自由と責任」

①役割分担ゲーム  
各エリア内に入(GK, DF, MF, FW)を配置。そのエリア内しか人は動くこと  
ができない。



②全員攻撃全員守備ゲーム  
ゴールインしたときに、全員がハーフラインを越えていないと得点と認めら  
れない。得点が入ったとき、相手側がハーフラインより前方に残っていたら、  
残っていた人数分だけボーナス点。



「自由と責任」の概念は、サ  
ッカーにおける不可欠要素

日常生活においても重要!

サッカーを通して「自由と責  
任」を学ばせたい

1990年に天津市で開かれ  
た「日中学校体育研究会」  
で発表しました!

見ていただいたのは「10 サッカーにおける自由と責任」です。日本の方はご覧になっていませんが、授業を参観して下さった中国の方々、見ていただいた通りです。サッカーを授業でやる際、ただ上手にプレーできるようになるというだけでなく、サッカーを通していろんなことを学ばせたいと考えています。「自由と責任」はサッカーで不可欠な要素であり、日常生活でもとても重要なことです。サッカーを通して「自由と責任」を学ばせたいと思って展開したのが今日の授業です。

うちの学校は教育研究校なので、授業を外に発信して行くことも求められています。実は中国とはご縁があって、1990年に天津市で行われた日中体育教師研究会（正式名称は忘れましたが）、今回の授業をビデオに撮って紹介しました。天安門事件の翌年です。中国側の公開授業もありましたが、どちらかというと軍隊式の、規律重視の授業が多かった印象です。そんな中で、日本の体育で「サッカーを通して自由と責任を学ぶ授業をやっている」ことを発表したら、同世代の人と意気投合しました。懇親会の場でも、そのあとの2次会でも、メチャクチャな英語と漢字の筆談でコミュニケーションをはかったところ、その方は天安門事件の時のある大学のリーダー格で、事件後、大学の偉い先生からはいつも冷たくあしらわれていると言っていました。

ここまでのところで、皆さんからの質問や感想を聞かせてください。

### ■質疑応答①日本の体育の授業について

質問：15時間の流れは高校生1年生のもので、2年生になると同じことをやるのか？

中塚：全員必修のサッカー単元は1年生だけです。2年生になるとサッカーはやりません。うちの学校では2年生ではバレーボール、陸上競技、ラグビー（男子）、ダンス（女子）などをやります。体育の授業では3年次に男女共習の選択実技があるので、そこで選択した生徒はサッカーをやります。こうしたカリキュラムは学校ごとに異なります。斎藤先生の学校では高校2～3年でサッカーをやっています。

質問：中学生の時は何時間くらい体育の授業をやりませんか？

斎藤：うちの学校（私立）では中1で週2時間、中2で2時間、中3が3時間です。

中塚：うちの附属中学校も似たような感じです。高校では1年2年3年で、3・2・3時間です。授業の休憩は10分です。お昼休みは1時間くらいあります。

鈴木：中国では2時間で1コマです。

質問：サッカーを通して自由と責任を教える。スポーツを通じた教育方法はすごくいいと思います。サッカーの15時間の中でこのようなことを教えているのを初めて知りました。スポーツを通して、他にどんな概念を教えてくださいか？

中塚：いろいろあります。例えばラグビーの授業では、自由と責任とは言いませんが、フットボールの原点である思想、スポーツの原点からくるものの考え方は伝えています。試合中は徹底的に戦います。試合中にもかかわらず自分のサイドから離れたらオフサイド＝反則となり、試合が終わったらノーサイド。徹底的に競い合った相手が仲間となるわけです。このように「サイド」という言葉を用いてゲームの精神を強調しています。これはラグビーだけでなく、スポーツ全般、あるいは社会生活全般について言えることです。

質問：JFA が危機感を感じているという話がありましたが、JFA はちゃんとやられているか確認しますか？

中塚：JFA が情報を提供しても、それを採用するかどうかは学校次第です。例えば、本校の系列である筑波大附属小学校は、JFA が言っていることはやりたがらないですね。附属小学校の先生は、体育の各教材で「動作の習得」を重視しているところがあり、サッカーは蹴る動作を習得するためにやっているところがあります。ゲームそのものを伝えようとする JFA の方法とは相いれないところがあるのです。

質問：先生がサッカーを選んでカリキュラムを作った理由は何ですか？ サッカーに教育的価値があるからですか？

中塚：他のスポーツを担当する時には、その競技の特性を踏まえて何らかの教育的価値を加味します。「自由と責任」を教えたくてサッカーを選んでいるわけではなく、サッカーで何ができるかを考えたときに「自由と責任」が出てきたということです。

## 2. 日本の部活動について

ここからは部活動の話です。まずは筑波大学附属高校の事例を紹介します。

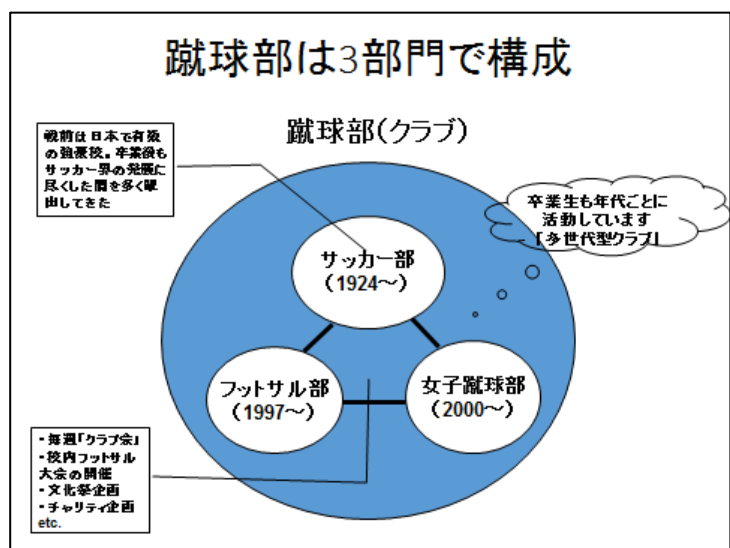
運動部 18、文化部 9、同好会 8 が、いま本校にある部・同好会の数です。部活動への加入は強制ではありません。複数の部に所属している生徒もいます。1 年生の時にはほとんどの生徒がどこかに入っていますが、学年が進むにつれ参加率は低下し、3 年の 6 月で彼らは「引退」という言葉を用いて活動を停止します。けどアマチュアに「引退」はありません。だからサッカー部員には「引退」という言葉は使わせません。そうすると生徒は「隠居」という言葉を探してきました。

本校では部活動は週 4 回以内と決められています。学業や他の活動とのバランスを考慮しています。

それぞれの部に教員が顧問としてついていきます。得意種目を持っている教員はいいのですが、やったことがない種目の顧問につかされることもあります。部活動問題はよく話題になります。このことは日本中のトピックになっていて、いまでは「ブラック部活」がはやり言葉のようになっています。

勝利至上主義に支配され、行き過ぎた指導の中での暴力や暴言の問題、過密日程で休みが取れない生徒の側からの主張、保護者の嘆き、そして教師の過重負担…。とくに教師の負担については「働き方改革」の動きも加わっています。昔からこうした問題はありましたが、かつてはそれぞれがブツブツ呟いていただけでした。それが SNS によってオープンになり、拡散し、他分野の「働き方改革」問題とも絡んで、大きな労働問題、社会問題になっています。

さて、筑波大学附属高校に話を戻しますと、顧問がついてはいますが、実際の指導は OB がコーチとして来てくれるなど、卒業後もつながりは強固です。生徒は自主的に活動していますが、いまどきの高校生なので、集団のマネジメントが拙かったり、上っ面の繋がりしかできなかったり、そのときどきでさまざまな問題が発生します。



筑波大学附属高校蹴球部について話をします。かなり個性的な作りになっています。

もともと高等師範の附属だったので、高等師範と同じ敷地でサッカーをやっていました。茗荷谷の駅前にある、文京区スポーツセンターの前に広がる広場がそれです。だからこの学校の生徒は、日本で最初にサッカーに親しんだ少年たちと言えるでしょう。

サッカー部として組織化されたのは 1924年です。大戦前は強豪で、多くの人材を排出し、日本サッカー協会初代会長もこの学校の卒業生です。

ここの学校の卒業生のほとんどは大学に行きますが、行った先々でサッカー部を作ります。たとえば東京大学や早稲田大学。さらに就職した先でもサッカー部を作ります。東京ガスにサッカー部を作ったのもこの学校の卒業生です。東京ガスは、いまでいう FC 東京ですね。

サッカー部は歴史と伝統がありますが、いまはあまり強くありません。サッカーに競技志向で取り組むサッカー部と、プレイ志向でフットサルをする男子のフットサル部、女子蹴球部もフットサルをしています。この3つの部門が集まり一つのクラブを構成しています。卒業生も年代ごとにチームを作って様々なリーグに参加しています。生涯スポーツの受け皿となっている、日本では珍しい学校運動部と言えるかもしれません。

ところで、高校サッカー決勝はいかがでしたか？

ここから高校生の競技会についてお話しします。みなさんがご覧になったのは高校の部活動で組織されている高体連主催の競技会で、高校サッカー選手権です。1918年に始まり、1977年より首都圏開催。今年でちょうど100周年です。いまちょうど『高校サッカー百年』という本を作っています。

全国の高校サッカー部は 4000校以上あります。それらが予選に参加し、各地域の代表が本大会に出場します。東京だけで 320校が参加しています。

参加校が多いので 8月から予選を行なっています。皆さんが観戦されたのは、その最後の試合、決勝戦ですね。

東京大会の最初の試合で、桜丘高校と筑波

## 高校生の競技会①高体連

### ◆高体連(高等学校体育連盟)主催の競技会

#### 1)全国高校サッカー選手権大会(12月末~1月初旬)

・1918(大正7)年にはじまる。1977(昭和52)年より首都圏開催

・全国から4,000校以上が予選参加。47都道府県代表が出場

・東京都予選は約320校が参加。8月から1次予選開始

**2017筑波大附は、桜丘、開成に勝利するも、都立国立に敗れる**

#### 2)全国高校総合体育大会=インターハイ(7月末~8月初旬)

・高校生の「オリンピック」。各県・地域で持ち回り開催

・東京都予選は4月から

#### 3)地域大会(5月末~6月初旬)

・全国9ブロックごとに開催。インターハイのブロック版

・東京都では11~12月の新人戦が予選を兼ねる

## 高校生の競技会②定期戦(筑波大附の場合)

### 1)学習院総合定期戦(全種目)

ほぼすべての部が対戦し、総合優勝を競い合う

### 2)開成レース(ボート)

日本最古の学校間対抗ボートレース

### 3)湘南戦(サッカー)

戦後すぐ始まった伝統校同士の定期戦



## 高校生の競技会③リーグ戦

### ◆高円宮杯U-18サッカーリーグ(FA主催)

#### 1)東日本と西日本で「プレミアリーグ」(4~12月)

EASTとWESTの1位同士がチャンピオンシップ(12月17日)

FC東京U-18 3-2(延長) ヴィッセル神戸U-18

#### 2)9地域ごとに「プリンスリーグ」

#### 3)都道府県ごとにレベル別リーグ

東京都は「Tリーグ(T1~T4)」「地区トップリーグ」「地区リーグ」

**筑波大附属は、DUOリーグ(地区リーグ)2部**

※DUOリーグが、ユースサッカーリーグの先駆け!(1996~)

大附属高校の試合がありました。その試合は勝ちましたが、1次予選の最後で都立国立高校に負けました。

高体連主催の全国大会はもう1つあります。通称インターハイと呼ばれる高校生のオリンピックです。開催地は持ち回りです。高体連の公式大会はもう一つ、地域大会があります。インターハイのブロック版です。我々であれば関東大会になります。

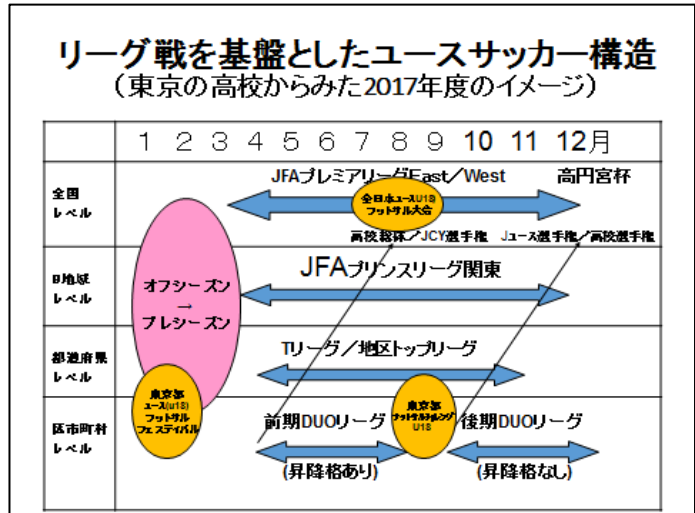
これらが公式戦ですが、うちの学校では学校行事として認定されている定期戦があります。学習院との総合定期戦はすべての部活動が競い合う対抗戦です。かつての校長、嘉納治五郎が学習院でも教鞭をとっていたことから始まり、戦後、総合定期戦となりました。毎年6月に行われるビッグイベントで、本校の3年生のほとんどはこの試合で部活動を一区切りします。そのことを彼らは「引退」と言いますが、「アマチュアに引退なし」。私は「引退」とは言わせません。開成レースは日本最古の学校間対抗ボートレースです 神奈

川県の湘南高校とのサッカー対抗戦も戦後すぐ始まった定期戦です。試合後の両校の交歓会もあります。定期戦文化を持っている学校は少ないですが、学校行事として学年暦にも入れられています。

もう1つ我々が大事にしているのがリーグ戦です。トップはプレミアリーグという名前で東日本と西日本に分かれて年間を通してリーグ戦をやっています。今年度は東日本がFC東京、西日本がヴィッセル神戸という、どちらもJクラブの下部組織が優勝しました。

プレミアリーグを頂点としてレベル別にリーグが組織されています。筑波大附属高校はDUOリーグの、その中でも2部リーグにいます。ユースリーグができたのは1996年のDUOリーグが最初です。だから我々がパイオニアです。リーグ戦をやりながら、間に高体連主催のカップ戦が入ってくるサッカー構造です。

リーグ戦が導入されたことでシーズンが作られ、オフシーズンにフットサルをする環境が少しずつできています。今日の部活動でサッカー部員もフットサルをやっていましたが、それは東京都ユースサッカーフェスティバルに参加する準備でもあります。U18フットサルも我々が手掛けて10年が経過し、いまでは



- ### このほかにも...
- ◆ 学校外のクラブによる「クラブユース連盟」があります
    - 1) 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会は今年で41年目！  
優勝 FC東京 U-18
    - 2) Jクラブユースの大会は、今年で25年目  
2017Jユースカップ 第25回Jリーグユース選手権大会  
優勝 京都サンガFC U-18
  - ◆ 国体少年の部は、都道府県選抜の対抗戦。  
2006年度からU-16で行われています
  - ◆ 女子サッカーは、学校外のクラブが優勢でしたが、高体連に加盟して以降、徐々にメジャー化してきました。  
女子フットサルも少しずつ...

全国大会もはじまっています。この写真は名古屋のオーシャンアリーナという、世界一のフットサル場で開かれた「U-18 フットサルリーグ・チャンピオンズカップ」の決勝の写真です。実はこの大会は、われわれの NPO 法人サロン 2002 が、toto の助成金をいただいて主催しました。

この他にも学校外のクラブによる「クラブユース連盟」があります。

また、都道府県選抜の対抗戦である国体少年の部は、2006 年度から U-16 年代で行われています。女子サッカーも盛んになってきました。女子のフットサルも少しずつですね。

## ■質疑応答②日本の部活動について

質問：私立のサッカー名門校ではサッカーを徹底的にさせているようなイメージがあるが、先生はそのような学校に対してどのような認識を持っていますか？

中塚：このスライドにある「これまで」のスポーツ観そのものですね。もっとゆとりを持ってできないのかなどいつも感じています。「これから」に書かれていることを目指して行ってほしいですね。ただ、私立の学校にとってはそれが生徒募集の戦略になっていたり、いろんな要素が関係します。部活の問題は根が深い。

質問：部活動は、先生は強制的にやっているのか。

中塚：本校ではすべての先生がどこかの部の顧問になっています。一般的にはそうになっています。しかし部活動の位置づけはあいまいで、本来教師の業務ではありません。そこがいま、教師の働き方改革などとあわせて大きな問題になっています。

質問：学生が部活に参加するために費用は払っていますか

中塚：払っています。本校サッカー部では、一人当たり年 7000 円を部費として徴収しています。

質問（張）：部活動のための残業代のようなものはありますか。

中塚：ひと昔前までは本当に何もありませんでした。それではひどすぎるから申請すれば 4 時間で 3,000 円、または代休を取る制度もあります。しかし、平日は授業があるから代休は取れません。外部コーチには保護者会などで支払うケースもあるそうです。

質問（笹原）：7,000 円は何に使いますか？ 学校からも出ますか？

中塚：生徒が使うテーピング代やドリンク代などさまざまです。このほか生徒会費から活動に必要な備品を購入したり、うちの部の場合は OB が寄付金を集めて支援してくれています。

## 日本的スポーツ観：これまでとこれから

<これまで>	<これから>
チーム	クラブ
選手	プレイヤー
多くの補欠	補欠ゼロ
競技志向	プレイ・スポーツ・競技
大会中心	日常生活中心
トーナメント	リーグ
引退あり	引退なしの生涯スポーツライフ
単一種日年中実施	複数種目シーズン制
「する」	「する」「みる」「語る」「ささえる」
単一価値観に集約	多様な価値観を認める
学校・企業	地域



## 第2部. 中国側からの報告 (ムーイェ)

牧野(ムーイェ):成都でアマチュアリーグ運営をしている。成都の青少年育成の状況をご説明します。  
このメンバーの中に成都の学校の先生と校長先生がいますので、この後意見交換させていただければと思います。

まず、成都市におけるサッカーの現状をお伝えします。成都是そもそも中国の中でもスーパーリーグが行われるなどサッカーが盛んな地域です。2001年には中国サッカー協会が重点都市に認定しています。2012年には青少年育成において2014年からパンダカップというナショナルチームの代表戦を行っています。日本のU18が出場した時もあります。日本代表は毎回良い成績を取ります。成都是青少年育成に力を注いできました。

(以下、PDFファイル「180112 成都青少年足球分享」参照。報告は改めて作成予定)

補足資料：筑波大学附属高校職員会議（2018年1月9日）での配布資料

2018.1.9.

## 「中国からのサッカー指導者視察と情報交換会」について

保健体育科教諭/NPO 法人サロン 2002 理事長 中塚義実

年末の会議において口頭でお伝えしましたが、1月12日（金）に標記事業を企画しています。中国側はオーシャンズマーケティング社が、日本側はNPO 法人サロン 2002 が受け皿となり、いずれも SFT コンソーシアムの一員であることから SFT 認定事業として実施する運びです（SFT=Sport For Tomorrow）。

5・6限の体育実技（1年生男子サッカー&女子体操）と放課後の部活動（主に蹴球部）を参観し、18:30からの意見交換会をNPO 法人サロン 2002 の月例会として音楽室で行う予定です。

中塚が中心となって対応します。ご承知おきください。

### 資料① NPO サロン 2002 2018年1月（通算 257回）月例会案内

【日 時】2018年1月12日（金）18:30~20:30

【会 場】筑波大学附属高校 3F 音楽室（会議室の隣）

注1）校門が閉まっていたら中塚携帯（090-1423-9289）に TEL してください。門を開けます。

注2）終了後は護国寺方面の中華料理屋「ルン」跡地の「景宜軒」（03-6902-1369）に繰り出します。

【テーマ】日本と中国のユース年代のスポーツ環境を考える

－中国のサッカー指導者との情報交換会（仮題）

【話題提供者】中塚義実（筑波大学附属高校）

鈴木稔（オーシャンズジャパン株式会社）ほか中国からご参加の指導者

【概 要】中国北京市に本社を置く「オーシャンズマーケティング社」主催で、1月7日～13日、中国からサッカー指導者 10 数名が「日本サッカーインスペクションツアー」で来日します。高校サッカーを観戦したり Jクラブの指導現場を視察するなど、受け入れの日本支社「オーシャンズジャパン株式会社」（鈴木稔氏）が魅力的なツアーを企画しています。その一環で「日本の学校体育（体育の授業と運動部活動）」視察のため筑波大学附属高校を訪れた中国の指導者たちと、日中の育成年代のスポーツ環境について情報交換するというのが1月の月例会です。

NPO サロンでは12月の月例会で「学校運動部のいま」を取り上げました。近代スポーツ導入期から学校が担い手となってきた育成年代の日本のスポーツ。とくに放課後の部活動は青少年にとって貴重なスポーツ経験の場となっています。さまざまな課題があることも含め、まずは日本の部活動と、筑波大学附属高校の現状について紹介します。

サッカー界ではクラブユースという選択肢もあります。こちらも Jクラブや街クラブなど多種多様です。さらに、NPO サロンが深くかかわりながら、ユース年代のフットサルも劇的な展開を見せ始めています。女子のサッカー・フットサルにも言及しながら、日本のユース年代のサッカーの現状を中国の指導者に紹介し、日中の育成年代のサッカー環境を比較しながら意見交換しようと思えます。

注）使用言語は日本語です（通訳がつくのでご安心ください）

【参加申込】サロン 2002 の HP からお申し込みください。参加費 1,000 円です。

【報告書作成者】募集中

## 資料② 特定非営利活動法人サロン 2002 とは

＜2017年8月27日 桐蔭会館にて行われた「20周年記念シンポジウム」配布資料より＞

特定非営利活動法人サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とする NPO です。

全国各地にいる約 100 名のメンバーは、学校関係者、スポーツ指導者やトレーナー、スポーツクラブの運営に携わる方、フットサルや草サッカーの関係者、メディア関係者、サポーターやボランティア、スポーツ行政に携わる方や競技団体関係者、医者や弁護士、アーティストなど多種多様です。さまざまな角度からスポーツに携わり、“志”の実現に向けて活動する者で構成されるのが「サロン 2002」です。

NPO 法人サロン 2002 の主たる活動は、2017年6月に通算 250 回となった月例会の開催と、その内容を軸とするホームページの運営です。本公開シンポジウムは 2001 年度よりほぼ毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。

詳細はホームページ＜<http://www.salon2002.net>＞をご覧ください。

### ＜サロン 2002 公開シンポジウム＞

- 2001 年度…FIFA コンフェデレーションズカップ総括
- 2002 年度…FIFA ワールドカップ総括
- 2003 年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境
- 2004 年度…totoを活かそう！
- 2005 年度…クラマーさん、ありがとう！
- 2006 年度…2006 年ドイツで感じたこと
- 2007 年度…サッカー観戦を楽しもう！-スタジアム編
- 2008 年度…地域からみたJリーグ百年構想
- 2009 年度…2019 年ラグビーワールドカップを語ろう！
- 2010 年度…育成期のサッカーを語ろう！
- 2011 年度…高校サッカー90 年史を語ろう！
- 2012 年度…U-18 フットサルを語ろう！
- 2013 年度…スポーツクラブの法人化を語ろう！
- 2015 年度…スポーツで“ゆたかなくらし”を！
- 2016 年度…日本サッカーのルーツを語ろう！

## サロン 2002 設立宣言

(2000年4月1日)

我々は、以下に「サロン 2002 の“歴史”」、「サロン 2002 の“志”」及び「サロン 2002 の“会員”」を述べることにより、ここにあらためてサロン 2002 の設立を宣言する。

### 【サロン 2002 の“歴史”】

サロン 2002 は、社会学、心理学等の専門的立場からサッカーの分析・研究・報告に従事していた「社・心グループ」(財団法人日本サッカー協会科学研究委員会の研究グループの一つで、1980 年代後半からこの名称で活動)を前身とし、1997 年からは研究者という枠にとられない、幅広い人材によって構成されるゆるやかな情報交流グループ「サロン 2002」として活動を行ってきた。

### 【サロン 2002 の“志”】

サロン 2002 は、サッカー・スポーツを通して21世紀の“ゆたかなくらしづくり”を目指すことを“志”とする。年齢、性別、国籍、職業、専門分野、生活地域などを超えた幅広いネットワークを築き上げ、全国各地にサロン 2002 の“志”の輪を広げ、大きなムーブメントとなることを目指す。

サロン 2002 の“志”を実現する上で、2002 年 FIFA ワールドカップ韓国／日本大会は大きな節目であると認識する。国内外の様々な人々と協力しながら、この世界的なイベントの“成功”に貢献するとともに、同大会後の“ゆたかなくらしづくり”のためにできることを考え、行動する。

### 【サロン 2002 の“会員”】

サロン 2002 は、前項の“志”を同じくする人たちのゆるやかなネットワークである。

サロン 2002 の“志”に賛同した個人であれば、誰でも、“会員”となることができる。ただし会員は、サロン 2002 からの“Take”を求めるだけでなく、サロン 2002 に対して、また社会に対して何が“Give”できるかを常に考え、“Give and Take”の姿勢でいるということが前提である。

サロン 2002 は、会員に対して短期的な成果は求めない。長い目で見た“Give and Take”の関係が成り立っていればよい。即座のアウトプットが困難であっても、いずれ何らかの形で“Give”を考えている人なら“会員”となることができる。

## 資料③「日本サッカーの育成を知る」 インスペクションツアーに関して

<オーシャンズジャパン・鈴木稔氏作成資料（一部改編）>

### 企画背景

中国は現在国を挙げてサッカーの強化に励んでいます。第2次産業の成長が頭打ちになってきており、今後のGDPを支えるのは、サービス産業であり、その多くをスポーツの分野で盛り立てていくという政策的な背景があります。サッカーは、他のスポーツに比較しても大きな産業規模を誇りスポーツ・サービス産業の成長の要となります。当然習近平国家主席が無類のサッカー好きというのも、拍車をかける要因にはなっていると思います。

特にこの2年で、中国のサッカーには青少年からしっかりと育成していかなければならない、というのはすでに共通の認識となっており、育成をメインとする民間のクラブが中国全土にできています。

弊社もこれまでは、中国サッカー協会やプロサッカークラブのアテンドや視察のアレンジをすることが多かったのですが、これまで公的な視察の機会に恵まれなかった民間の草の根サッカーを支える指導者や、学校の体育の先生たちから、自費でも日本への研修に行きたいとの声を頂戴することが多くなり、日本サッカーのインスペクションツアーを企画するに至りました。

### 参加者（以下の14名で参ります）

民間の育成を主とするクラブでの指導者 3名

学校の先生（校長、教頭） 2名

スポーツマネジメント会社 2名

サッカーメディア 4名 ※大手ではなく、サッカーに特化したAPP系のメディア

オーシャンズスタッフ 2名

鈴木（通訳）1名

### 視察期間

2018年1月7日～13日

### 今回の訪問先など

1月8日 … 日本サッカーミュージアム、高校サッカー決勝戦

1月9日 … 西野努氏の講演、宮本恒靖フットサルパーク見学

1月10日 … ベルマーレ関口氏講演、セレッソ大阪見学

1月11日 … 時の栖スポーツセンター訪問

1月12日 … 筑波大学附属高等学校見学：体育の授業や学生のサッカーに取り組み姿勢、サッカーと学業の両立、将来の進路選択するうえでのサッカーが占める割合など

※ 日本のいくつかの育成シーン（学校での部活動、プロクラブのアカデミーによるエリート育成、民間クラブや総合スポーツ施設など）を見学し、それぞれがどういったコンセプトで行われているのか。また社会の奏でどのような役割を果たしているのか、などの研究

※ その中でも、御校への見学では、体育の授業、部活動としてサッカーに取り組んでいる学生たちの現状、学生たちのスポーツへ取り組むことの意味などを探りたいと思います。プロ選手になるだけが、スポーツの目的でないとするならば、選手たちのスポーツに対するモチベーションはどこから来るのか、受験の妨げにならないのか、など

### オーシャンズの役割

中国本社で、日本サッカーインスペクションツアーの企画立案、日本支社（オーシャンズジャパン株式会社）では、現地の受け入れを担当します。

よってツアーの主催者は、「オーシャンズマーケティング社」となり、日本支社（鈴木）は受け入れと現地コーディネートを担当する、ということになります。

#### ■オーシャンズマーケティング社の概要

設立 2006年

本社 中国北京市

支社 上海、香港、東京（「オーシャンズジャパン株式会社」オーシャンズ 100%出資の子会社）

従業員 約45名（2017年11月現在）

事業内容

スポンサーシップセールス 中国で行われるスポーツイベントに、企業からのスポンサーを獲得するなど。その他、企業のプロモーションやCSR活動としてのスポーツイベントなどを企画、実施するなど

スポーツイベントの運営 主に海外のスポーツクラブの中国巡業の企画、運営。マラソン大会など中国国内でのスポーツイベントの興行。

放映権セールス 主に海外のスポーツイベントの中国メディアに対して放映権を販売

#### スポーツ団体などへのコンサルティング

- (ア) 中国プロサッカークラブ山東魯能へのマーケティングコンサルティング
- (イ) 同、重慶力帆サッカークラブへのチケットに関するコンサルティング
- (ウ) 2015年以降中国サッカー協会のマーケティング諮問機関としての認定を受ける
- (エ) 弊社従業員が、中国陸上協会 マラソン委員会の委員に就任

#### ■オーシャンズジャパン株式会社の概要

オーシャンズマーケティングが100%出資する子会社

設立 2015年 住所 東京都中央区八丁堀4-4-4 従業員 1人

事業内容

#### スポンサーシップセールス

ブリジストンの五輪を見据えたプロモーション活動への参加

インバウンド事業 訪日旅行の誘客促進、スポーツイベントへの参加をアレンジ、訪日スポーツ視察や座談会、研修プログラムなどの策定、運営など

2016年 青梅マラソン、長野マラソン、東京マラソンへの誘客

2016年 重慶市の小学生を長野菅平サッカー大会（日本キャンプ）へのアレンジ

2017年 札幌で行われた冬季アジア大会期間中、訪日中国メディア向けの視察ツアーを企画、札幌グローバルスポーツコミッションと協業し、100名規模のメディア座談会を企画、実施 など

#### 新規ビジネスの開発

ハイアール社が建築する「ハイアール博物館」のデザイン業務を、日本の大手建築デザイン会社受注のアレンジ

中国の物販会社の、日本での仕入れをコーディネート など